

## 1. CBRNE災害をめぐる現状と課題

- 科学技術の進展に伴いCBRNEテロをめぐる情勢が変化している中、内閣官房を中心とした対策会議において、消防・警察・自衛隊・医療機関等の各機関の連携強化や対応力強化に向けた検討が進められている。
- CBRNE災害は、ひとたび発生すると、多くの人の生命・身体に危険をもたらすだけでなく、脅威が目に見えないため、実態把握が難しく、救出活動に大きな困難が伴う。
- 消防機関においては、新技術を活用した最新鋭資機材の導入例はまだ少なく、一層の対応力強化が求められている。

## 2. 今後の検討の方向性

- AI・ロボット・ドローン等の新技術は、CBRNE災害の困難な環境下での活動においてより効果的であり、新技術を活用した資機材の導入を積極的に推進し、より迅速かつ安全な対応ができる態勢を構築すべき。
- CBRNE対応力を強化し、新技術の普及を促すため、まずは国が主導して最新鋭資機材を配備し、高度な対応能力を有する部隊を大都市部に配置してはどうか。
- こうした資機材の導入による対応力の向上を、CBRNE災害に限らず、多くの大規模災害対応の高度化にもつなげていくべき。
- 技術は常に進化しており、CBRNE災害それぞれの特性を確認し、それぞれに対応した資機材や活動マニュアルの見直し、人材の育成等を、国際的な動向の調査も行いつつ継続的に行う必要がある。

### 【新技術を活用した活動イメージ(例)】

#### ○ 指令・指揮

##### デジタル指揮卓

##### 指揮支援車

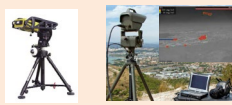
- ・ タッチパネルモニターやAIを活用し、情報の集約・分析を省力化・迅速化。加えて、高度な指揮判断を支援。



#### ○ 検知、救助

##### 高性能検知器

- ・ 遠距離から危険物質を検知、可視化し、迅速な救助活動と隊員の安全確保を両立。



##### 偵察ドローン

##### 四足歩行ロボット

- ・ 危険区域や建物倒壊現場等に機動的に到達し、現場状況を迅速に把握。



##### 無人放水重機

- ・ 遠隔での消火や障害除去。



##### ウェアラブル端末

- ・ 隊員の情報を即時把握。



##### 通信ドローン

- ・ 電力・通信途絶時にも部隊間の迅速な情報連携を実現。



#### ○ 除染・救急

##### スーパーアンビュランス

##### 即展開除染テント

- ・ 多数の要救助者を迅速に除染、搬送。

